

ICPC/C-SRLM 第 1 回統轄チーム会議議事録

日時：2000年5月27日 午後5時～6時30分

場所：学士会館 305 号室

出席者：河合 忠、菅野剛史、神辺真之、渡邊清明、中原一彦、櫻林郁之介、河野均也

欠席者：福井次矢

1. 開会の辞 河合 忠

2. C-SRLM 発足の経緯

予め配布してあった資料、国際臨床病理センター「臨床検査医学における系統的再評価プロジェクト」(2000. 5 案)、について河合 忠より説明し、了承された。なお、以下の諸点につき追加了承された。

(ア)名称の変更

- (1) 当初 ICPC ワーキンググループとしたが、より幅広い活動を目指し、IFCC 委員会との共同活動の可能性も考慮して、ICPC/臨床検査医学における系統的再評価プロジェクト委員会 (Committee on Systematic Reviewing in Laboratory Medicine)に変更する。
- (2) IFCC/C-SRLM は、近い将来、IFCC/C-EBLM(Committee on Evidence-Based Laboratory Medicine)に名称と活動範囲(Scope)を変更する予定であり、来る 6 月 7 日の委員会会議で了承を取る予定である。その後、IFCC/EB に図り、承認された上で正式に名称・活動範囲を変更する。IFCC/EB の感触は賛成の方向である。
- (3) IFCC/C の名称変更が確定したところで、本プロジェクトの名称変更を議論する。

(イ)研究方法

- (1) ICPC/C-SRLM の組織は、統轄チーム (management team)、方法論チーム (methodology team)、選考チーム (selection team)、統計チーム (statistics team) の 4 つから構成する。
- (2) 統轄チームの構成員は次の 8 メンバーとする：河合 忠、菅野剛史、神辺真之、渡邊清明、福井次矢、中原一彦、櫻林郁之介、河野均也。河合 忠は ICPC 常勤研究員、それ以外の 7 名は ICPC 非常勤研究員である。パートタイムスタッフとして、河合式子(庶務・会計担当)及び西堀真弘(ホームページ担当)の 2 名に依頼する。
- (3) 神辺チームは、当初、日本臨床病理学会臨床検査情報学専門部会 E B L M 作業班が担当し、日本学術振興会科学研究費補助金平成 12 年度基礎研究(C) 課題番号 12897028 (主任研究員：石田博)が協力する。出来るだけ早く、SRLM を進めるための具体的なガイドラインをまとめる。また、本基礎研究を支援するために ICPC/C-SRLM 統轄チームメンバーが研究協力者となる。
- (4) 渡邊チームは、最近の研究結果が出版され、現状で臨床的ニーズが高く、

- しかも担当者が英文論文として発表して業績となりうるようなテーマを3, 4個選び、2名以上の組み合わせでSR担当者を指名または公募して決める。
- (5) 採択されたテーマには1件20万円の研究補助金を交付する。当初10件までの予算を確保する。
 - (6) SR担当者を含めた研修会を開催して、SRの進め方についてコンセンサスを作る。また、研究が進む過程で、中間結果、最終結果等についての研究成果発表会(open または closed)を開催する。他の学術集会、例えば日本臨床検査医学会教育セミナー、等との共催も考える。
 - (7) 研究成果を日常診療に反映するための方策を検討し、それを公開する。それによって本プロジェクトが真に患者のための医療を目指す重要な試金石となるよう努力する。
 - (8) インターネットホームページを開設する。西堀先生の協力を得てuminとのリンクを検討する。また、日本臨床病理学会のホームページも考慮し、データベースを維持するための容量、容易さ、などから検討する。IFCC/Cでもデータベース化を考えているので、IFCC/Cの活動、研究成果を取り込んで国際的な活動に広げるよう働きかける。

3. 今後の進め方

自由討論形式で意見交換をした。基本的には委員長から提案された内容で各チームが順次活動を始めることとする。

本プロジェクトの最初のテーマとして、高感度CRP測定法の臨床的意義の確立をめざし、とくに新生児感染症の早期診断ならびに循環器系疾患のリスク予知をテーマに竹村譲・石田博両先生が担当しており、本研究はDade Behring株式会社の「高感度CRP測定法研究会」の中で進めている。なお、厚生科学研究費補助金については、菅野剛史先生と神辺真之先生が申請をしており、未だ採否の通知が来ていない。また、今後とも、あらゆる機会を捕らえて、公的研究補助金ならびに民間研究補助金等を獲得するよう関係者が努力する。

4. 閉会

自由討論の後、河合 忠委員長からご協力に対して謝辞が述べられ、散会した。